

令和 6 年 5 月 4 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12399

研究課題名（和文）ビッグデータの活用によるスマートツーリズム・デスティネーションの構築と価値共創

研究課題名（英文）Smart tourism destination development and value co-creation through big data

研究代表者

佐野 楓（Sano, Kaede）

和歌山大学・観光学部・准教授

研究者番号：60707298

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究期間中、主に3つの成果が上げられた。第一に、サーベイデータとソーシャルビッグデータの解析によって、観光客の潜在的ニーズと情報検索プロセスを客観的に把握した。第二に、GPSビッグデータの解析によって、観光客の行動パターンの理解をもとに、観光エリアと事業者による最適協業モデルを探索した。第三に、来阪外国人観光客のGlobal Positioning System（GPS）ビッグデータと大阪市内のホテル分布データの解析によって、観光客、観光関連事業者、観光地による価値共創のエコシステムの構築を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スマートツーリズム・デスティネーションは、観光地に競争優位をもたらすための市場戦略の方向の一つとして注目を浴びているが、ステークホルダー間の動的な相互作用についての知識が十分に蓄積されておらず、スマートツーリズム・デスティネーションの構築と発展が停滞している。そこで本研究では、サービス・ドミナント・ロジックの理論を援用し、多様なビッグデータの解析によって観光客の潜在的ニーズを把握し、観光エリアと事業者による最適協業モデルを探索した。日本では、スマートツーリズムに本格的に取り組む都市や地域がまだ少なく、本研究で得られた知見は日本社会全体にとっても大きな実務的意味を持つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：During the research period, the following three main achievements were addressed. First, this study better understood tourists' potential needs and information processing behaviors through the analysis of survey data and social big data. Second, based on the tourists' spatial mobility patterns, this study explored the optimization model regarding how stakeholders can collaborate with each other in a certain destination through GPS big data analysis. Third, based on the analysis results of GPS big data collected from the international tourists and hotel distribution data in Osaka city, this study further attempted to build an ecosystem which is an outcome of value co-creation among all stakeholders in a destination.

研究分野：観光学

キーワード：スマートツーリズム・デスティネーション ビッグデータ サービス・ドミナント・ロジック 価値共創 エコシステム 観光客行動パターン

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

技術革新による Web 1.0 から Web 4.0 への大きな飛躍に伴い、観光産業もツーリズム 1.0 の時代からツーリズム 4.0 の時代に突入しつつある。スマートツーリズム・デスティネーションは、スマートツーリズムの台頭によって生まれた新しい概念であり、観光地に競争優位をもたらすための市場戦略の方向の一つとして注目を浴びている(Gretzel, et al., 2015)。研究開始当初、スマートツーリズム・デスティネーションという概念はまだ広く知られておらず、観光デジタルトランスフォーメーション(以下 DX)としてしばしば取り上げられていた。2020 年からのコロナ禍においてリモートワークやオンライン会議など、社会の様々な面でデジタル化が一気に進んだ。こうした急速な変化を受けて、観光庁も 2021 年度に「DX の推進による観光サービスの変革と観光需要の創出事業」として一般財源の予算 8 億円を計上するなど、観光 DX に注力している。

産業界では欧米諸国が中心に、2000 年頃からスマートツーリズム・デスティネーションへの取り組みが始められており(Li, et al., 2017)。多くの国において戦略的発展の主要な目標ともなっている。日本では、スマートツーリズムは最先端技術によって観光客にスマートな体験を提供することを目的とした観光 DX と結び付けられる傾向がある。また、日本のスマートツーリズム・デスティネーションは、観光客の時空間な行動を予測することにより、人気観光スポットの混雑を緩和し、地域住民と観光客の双方に資する健全な観光を築き上げるスマートシティの一面としてアプローチされることもある。

## 2. 研究の目的

スマートツーリズム・デスティネーションの原点は、共通のプラットフォーム上で観光客、観光関連の事業者、観光地が相互関係を持ちながら共生していくエコシステムである(Brandt, et al., 2017; Gretzel, et al., 2015)。しかし、現状では、価値の共創者としての観光客の役割や、観光客、事業者、観光地との動的な相互作用についての知識が十分に蓄積されておらず、スマートツーリズム・デスティネーションの構築と発展が停滞しているように考えられた。そこで、本研究では、Vargo & Lusch (2004) が提唱する S-D ロジック(Service-Dominant Logic)におけるサービス・エコシステムを理論的枠組みにし、多様なビッグデータを解析することによって、(1) 観光客の潜在的ニーズと情報検索プロセスを客観的に把握すること、(2) 観光客の移動パターンの予測モデルをもとに、観光エリアと事業者による最適協業モデルを構築すること、(3) 観光客、事業者、観光地による価値を創造できることを研究目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究は定性的分析手法及び定量的分析手法を用いて研究を行った。具体的には、定性的分析研究としては、スマートツーリズム・デスティネーション構築に関する阻害要因、今後の方向性について、システムティックレビューを通して、理論的に探索したものが挙げられる。定量的分析研究としては、消費者行動論の側面から、実験室実験によって、観光地づくり法人(以下 DMO)主導のソーシャルメディア・マーケティング効果、観光客がスマートツーリストとして、スマートツーリズム・デスティネーション構築への協力意欲を検証した。また、ソーシャルビッグデータの解析によって、観光客の潜在的ニーズや選好を把握した。さらに、空間統計学の側面から、Global Positioning System(以下 GPS)ビッグデータとホテル分布データの解析によって、観光客の移動パターンと観光スポットによる経済的波及効果の内的関連性を明確にした。

## 4. 研究成果

**2020 年度において**、観光客の潜在的ニーズと情報検索プロセスを客観的に把握することを目的とした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大と緊急事態宣言の影響により、当初予定していた来阪外国人観光客の移動パターンの GPS ビッグデータを収集することができなかった。そのため、和歌山大学国際観光学術研究センターから提供された 2016 年度・来阪外国人観光客の GPS ビッグデータを代用し、アンバーデスティネーションを訪れた観光客の移動パターンを分析して、彼らの潜在的ニーズを探索した。また、観光客の情報検索プロセスについて、感情的メッセージと実用的メッセージによるマーケティング・プロモーション効果の違いを比較したが、研究成果の発表は次年度の国際学会となった。

2020年度の主な研究成果としては、まず、本研究プロジェクトを“Value co-creation and open innovation in urban smart tourism ecosystem development: A lens from service-dominant logic”というテーマで、Wakayama Tourism Reviewで紹介し、S-Dロジック理論に基づき、スマートツーリズム・デスティネーションの概念的フレームワークを提唱した。また、2016年度大阪市を訪れたアメリカ人観光客、中国人観光客、韓国人観光客のGPSビッグデータを解析し、(1) 国と文化背景が異なることにも関わらず、大阪市の代表的な観光スポット（例えば、通天閣、海遊館、ユニバーサルスタジオジャパン等）を訪れる傾向があったため、公共交通機関と観光スポットの混雑の原因になった（図1）；(2) 韓国人観光客とアメリカ人観光客に比べて、中国人観光客の移動範囲が最も広がったため、中国人観光客の大阪市に対する興味が最も強かったことを推測した；(3) 外国人観光客が同じ観光スポットを訪れる傾向があったものの、それぞれの観光スポットの滞在時間と一日中の移動パターンが異なることが分かった。その研究成果は、“Mobility patterns of international tourists: Implications for responsible urban tourism”と題して、Journal of Responsible Tourism Managementの創刊号に査読付き学術論文として、掲載することになった。さらに、Journal of Responsible Tourism Managementの創刊記念ハイブリッドイベント Inaugural Publication of Journal of Responsible Tourism Management（2021年2月2日YouTubeライブ配信、UCSI University マレーシア）で、招待講演として“Mobility patterns of international tourists: Implications for responsible urban tourism”の研究内容を紹介した。

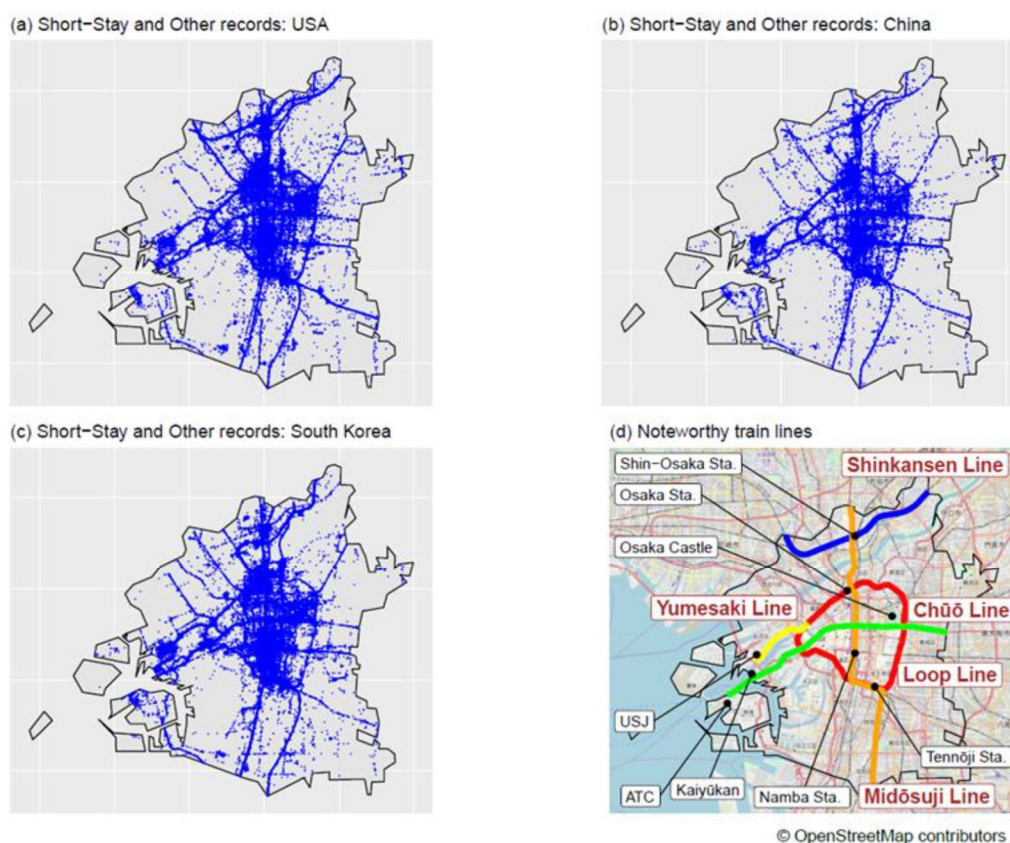


図1: アメリカ人観光客、中国人観光客、韓国人観光客の移動パターンの特徴 (Sano et al., 2021)

**2021年度において**、計量経済学とオペレーションズ・マネジメントの視点から、観光客の移動パターンを明らかにして、観光エリア間の協業に関する最適化モデルの構築を試みることは研究目的であった。本来は前年度と同様に、ソーシャルメディアプラットフォームに投稿された、観光関連の最新ソーシャルビッグデータを分析対象としたが、新型コロナウイルス感染症の第5波（2021年7月1日～9月30日）、第6波（2022年1月1日～3月31日）に伴い、緊急事態宣言と蔓延防止重点措置の関係で、やむを得ず、研究計画を延長・変更することになった。主な変更点は、2021年度のソーシャルビッグデータの代わりに、2018年1月1日～12月31日のソーシャルビッグデータを代用したこと、並びに観光エリア間の協業に関する最適化モデルの探索を次年度に伸ばしたことであった。

2021年度の主な研究成果としては、まずビッグデータの利活用によるスマートツーリズム・デスティネーションの発展と今後の課題について、“Current trends, issues, and future directions of smart tourism development through big data”という学術論文を、Journal of Information and Managementに掲載した。また、和歌山県の友ヶ島、高野山、熊野古道、白浜を訪れた観光客のTwitter（現在 X）を、潜在的ディリクレ配分法によって解析した。そこで、

各観光スポットにおける観光客の年間・一日の投稿数を通して、観光客の移動パターンを推測することができた(図2-1,2)。加えて、Twitter投稿から自動的に抽出されたトピックをもとに、観光客の潜在的なニーズと観光地に対する潜在的なイメージを探索することができた。その研究成果が“Developing a smart tourism destination through social big data: Multiple case studies from Wakayama Prefecture”と題し、『観光学』に掲載されている。さらに、従来の人口統計学的な属性(例えば、性別、年齢、所得、家族構成等)以外、観光客の移動パターンに基づく新たな市場細分化の方法を“Data-driven market segmentation by tourists' mobility patterns: A methodological approach”の論文で提唱した。

そのほか、International Conference of the Euro-Asia Tourism Studies Associationの国際学会で、“Mobility-as-a-Service (MaaS) in sustainable tourism destination development: A case study of Japan”と題し、観光スポットを結び公共交通機関の混雑を緩和し、観光客がより便利に移動できるため、Mobility-as-a-Service (MaaS)の持続可能な観光地発展における重要性を強調した。また、観光客が情報を検索する際に、感情的メッセージと実用的メッセージからいかなる影響を受けるのかについて、“Comparing the effects of cognitive and affective messages on tourist destination promotion”の研究発表を、同じ国際学会で行った。

**2022年度においては**、前年度の観光エリア間の協業に関する最適化モデルの構築という研究を継続して行った。特に、観光エリア間における経済的波及効果について、重点を置いて研究を行った。また、本研究計画を申請した際に、予想しなかったCOVID-19のパンデミックが厳しい渡航制限を余儀なくされた観光業界にとって、従来の旅行スタイルを補う新たな旅行方法を模索することは重要な課題である。そのため、本研究において、新たなテーマとして、人間と機械の共生的相互作用を目指すWeb4.0の到来とともに開発が加速するメタバースを、スマートツーリズム・デスティネーションに新たな道を切り拓く技術として注目した。

2022年度の主な研究成果としては、“Spatial Distribution of Accommodation Supply in Osaka City - A Policy Perspective”の学術論文において、大阪市の宿泊施設分布データを解析し、2020年度解析した人流データと観光スポット分布データに合わせて、大阪市の観光エリア間における経済的波及効果を測定し、観光エリア間の協業に関する最適化モデルの構築を試みた(図2-1,2)。その内容をもとに、“Tracking international tourist's mobility in Osaka city”というタイトルで、International Conference on Sustainable Tourism and Hospitality 2022で招待講演を行った。また、メタバースがスマートツーリズム・デスティネーションの構築にいかなる影響を与えるのかについて、“The metaverse in the tourism industry: A new horizon after the COVID 19 pandemic”の学術論文で議論した。

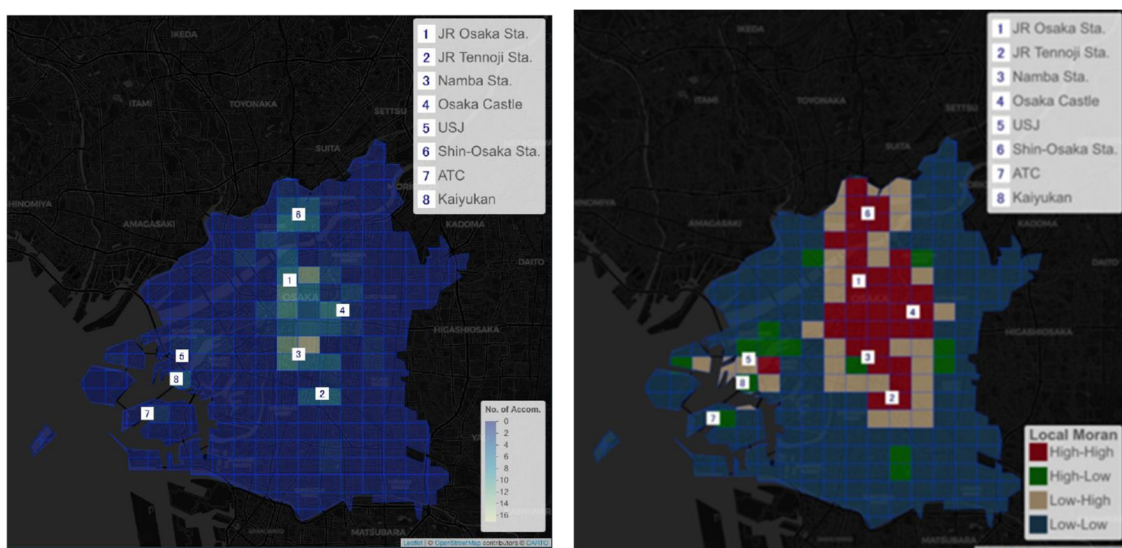


図2-1(左): 大阪市の宿泊施設分布と主要な観光スポット  
 図2-2(右): 観光エリア間の経済的波及効果

**2023年度においては**、これまでに得られた知見を踏まえて、持続可能なスマートツーリズム・デスティネーションの構築について、サービス・ドミナント・ロジックで提唱されたエコシステムにおけるアクター同士の価値共創から、観光客行動に注目した。まず、解釈レベル理論を土台にして、観光地域づくり法人(DMO)が主導しているソーシャルメディア・マーケティングの効

果を検証した。その結果、DMO 主導のソーシャルメディア・マーケティングが観光客の訪問意欲に影響を与えることを確認できたものの、観光客の観光地への訪問時期(時間的距離)によって、プロモーション効果が変わってくることも明確にした。また、時間的距離のほか、空間的距離、社会的距離の概念を加えて、行動経済学で提唱された利他的行動と利己的行動に着目し、観光客のスマートツーリズム・デスティネーション構築に協力する意欲を検証した。それらの研究は、消費最大化と顧客満足度向上のための効果的な市場戦略等を DMO に提案することができた。さらに、観光客の意思決定プロセスをより理解するために、生体認証という新しい研究方法を用いて、観光客がいかに情報収集を行うのかを検証した。

2023 年度の主な研究成果としては、DMO 主導のソーシャルメディア・マーケティング効果を検証した “The effects of temporal distance and post type on tourists' responses to destination marketing organizations' social media marketing” の学術論文が、観光研究分野のトップジャーナル Tourism Management に掲載され、観光客のスマートツーリズム・デスティネーションへの協力意欲について、“Tourists' willingness to contribute to smart tourism: a construal level theory perspective” の学術論文は、Journal of Hospitality and Tourism Insights に掲載された。また、グリーン・スローモビリティが持続可能な観光発展への貢献性について、“Sustainable urban tourism with Green-Slow mobility: A case of Ikebukuro, Japan” の学術論文で議論を行った。さらに、観光学術学会・2023 年度全国大会の「観光マーケティング研究の新しい動き」というシンポジウムで、「観光デジタルトランスフォーメーションによる競争優位性の高い観光地経営 - 価値競争とオープンイノベーションの視点から」と題して、招待講演を行った。講演内容は、観光分野のデジタル・マーケティングを始め、本研究プロジェクトのこれまでの取り組みを紹介したものであり、『観光学評論』の学術論文として収録されている。そのほか、和歌山大学国際観光学研究センター・2023 年度の共同支援プログラムで採択されたプロジェクトと連動して、“Exploring tourists' perceptions on the use of generative AI: Using ChatGPT for travel planning to Japan” と題し、Travel and Tourism Research Association (TTRA) Asia Pacific Chapter の国際学会で優秀論文賞を受賞した。

2020 年度 - 2023 年度の本研究においては、予想しなかった COVID-19 パンデミックの影響により計画通りに進まず、余儀なく計画を変更したことがあった。しかし、コロナ禍を経験して、ビッグデータ解析が観光研究にもたらした画期的な変化、従来の旅行スタイルを補う新たな旅行方法を模索するメタバースの台頭、観光客意思決定プロセスにおける人工知能の利活用等、スマートツーリズム・デスティネーションをテーマとした本研究に、様々な新たな可能性が生まれた。その 4 年間の研究成果をもとに、次の研究ステップに繋がりたいと思う。

## 参考文献

- Brandt, T., Bendler, J., & Neumann, D. (2017). Social media analytics and value creation in urban smart tourism ecosystems. *Information & Management*, 54(6), 703-713. <https://doi.org/10.1016/j.im.2017.01.004>
- Gretzel, U., Sigala, M., Xiang, Z., & Koo, C. (2015). Smart tourism: foundations and developments. *Electronic Markets*, 25(3), 179-188. <https://doi.org/10.1007/s12525-015-0196-8>
- Li, J., Xu, L., Tang, L., Wang, S., & Li, L. (2018). Big data in tourism research: A literature review. *Tourism Management*, 68, 301-323. <https://doi.org/10.1016/j.tourman.2018.03.009>
- Vargo, S. L., & Lusch, R. F. (2004). Evolving to a new dominant logic for marketing. *Journal of Marketing*, 68(1), 1-17. <https://doi.org/10.1509/jmkg.68.1.1.24036>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano, Shuichi Nagata, & Hiroki Sano  | 4. 巻<br>2            |
| 2. 論文標題<br>Spatial Distribution of Accommodation Supply in Osaka City - A Policy Perspective | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Responsible Tourism Management  | 6. 最初と最後の頁<br>90-102 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.47263/jrtm.02-02-06   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano, Hiroki Sano & Shuichi Nagata   | 4. 巻<br>4             |
| 2. 論文標題<br>The metaverse in the tourism industry : A new horizon after the COVID-19 pandemic | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>Wakayama Tourism Review  | 6. 最初と最後の頁<br>32 ~ 35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.19002/24363839.4.32   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Siyu Li & Kaede Sano  | 4. 巻<br>25          |
| 2. 論文標題<br>Tourism Destination Image : Lessons learned and ways forward | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>Tourism Studies   | 6. 最初と最後の頁<br>25-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.19002/AA12438820.25.25                   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                  | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano   | 4. 巻<br>41(4)        |
| 2. 論文標題<br>Current Trends, Issues, and Future Directions of Smart Tourism Development through Big Data | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Information and Management  | 6. 最初と最後の頁<br>98-109 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroshi Oike, Kaede Sano   | 4. 巻<br>26         |
| 2. 論文標題<br>Developing a smart tourism destination through social big data : multiple case studies from Wakayama Prefecture | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Tourism Studies  | 6. 最初と最後の頁<br>1~15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.19002/AA12438820.26.1   | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano, Hiroki Sano & Shuichi Nagata   | 4. 巻<br>2           |
| 2. 論文標題<br>Data-driven market segmentation by tourists' mobility patterns: A methodological approach | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>Wakayama Tourism Review  | 6. 最初と最後の頁<br>49~51 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.19002/10.19002.2.49   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano, Shuichi Nagata, Hiroki Sano, & Joseph M. Cheer                               | 4. 巻<br>1            |
| 2. 論文標題<br>Mobility Patterns of International Tourists: Implications for Responsible Urban Tourism | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Responsible Tourism Management  | 6. 最初と最後の頁<br>88-111 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.47263/JRTM.01-01-07   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>該当する         |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano & Hiroki Sano   | 4. 巻<br>1          |
| 2. 論文標題<br>Value co-creation and open innovation in urban smart tourism ecosystem development : A lens from service dominant logic | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>Wakayama Tourism Review  | 6. 最初と最後の頁<br>9-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.19002/24363839.1.9  | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|   |                              |
|---|------------------------------|
| 1. 著者名<br>Hao Sun & Kaede Sano  | 4. 巻<br>ahead-of-print       |
| 2. 論文標題<br>Tourists' willingness to contribute to smart tourism: a construal level theory perspective | 5. 発行年<br>2023年              |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Hospitality and Tourism Insights   | 6. 最初と最後の頁<br>ahead-of-print |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1108/jhti-07-2023-0483   | 査読の有無<br>有                   |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                    |

|   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Sano, Kaede Sano, & Kumi Kato  | 4. 巻<br>4              |
| 2. 論文標題<br>Sustainable Urban Tourism with Green-Slow Mobility: A Case of Ikebukuro, Japan | 5. 発行年<br>2024年        |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Responsible Tourism Management                                       | 6. 最初と最後の頁<br>94 - 106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.47263/JRTM.04-01-06  | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-              |

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名<br>Kaede Sano, Hiroki Sano, Yuji Yashima, Hajime Takebayashi   | 4. 巻<br>101                   |
| 2. 論文標題<br>The effects of temporal distance and post type on tourists' responses to destination marketing organizations' social media marketing | 5. 発行年<br>2024年               |
| 3. 雑誌名<br>Tourism Management  | 6. 最初と最後の頁<br>104844 ~ 104844 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.tourman.2023.104844   | 査読の有無<br>有                    |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                     |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐野楓   | 4. 巻<br>12            |
| 2. 論文標題<br>観光デジタルトランスフォーメーションによる競争優位性の高い観光地経営 - 価値共創の視点から | 5. 発行年<br>2024年       |
| 3. 雑誌名<br>観光学評論   | 6. 最初と最後の頁<br>47 - 66 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                    | 国際共著<br>-             |



〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kaede Sano   |
| 2. 発表標題<br>Tracking international tourist's mobility in Osaka city                            |
| 3. 学会等名<br>International Conference on Sustainable Tourism and Hospitality 2022 (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|                            |
|----------------------------|
| 1. 発表者名<br>佐野楓、佐野宏樹、永田修一   |
| 2. 発表標題<br>ツーリスト・モビリティの解析  |
| 3. 学会等名<br>サービス学会 第11回全国大会 |
| 4. 発表年<br>2023年            |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kaede Sano, Hiroki Sano, Yuji Yashima, Hajime Takebayashi                                  |
| 2. 発表標題<br>Comparing the effects of cognitive and affective messages on tourist destination promotion |
| 3. 学会等名<br>7th International Conference of the Euro-Asia Tourism Studies Association (国際学会)           |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Hiroki Sano, Kaede Sano  |
| 2. 発表標題<br>Mobility-as-a-Service (MaaS) in sustainable tourism destination development: A case study of Japan |
| 3. 学会等名<br>7th International Conference of the Euro-Asia Tourism Studies Association (国際学会)                   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kaede Sano  |
| 2. 発表標題<br>Mobility Patterns of International Tourists: Implications for Responsible Urban Tourism |
| 3. 学会等名<br>Inaugural Publication of Journal of Responsible Tourism Management (JRTM) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐野楓  |
| 2. 発表標題<br>観光デジタル・トランスフォーメーションによる 競争優位性の高い観光地経営 価値共創とオープンイノベーションの視点から |
| 3. 学会等名<br>観光学術学会 (招待講演)  |
| 4. 発表年<br>2023年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kaede Sano   |
| 2. 発表標題<br>Smart Tourism Development - Current trends and future challenges |
| 3. 学会等名<br>日本地域学会 第60回年次大会 (招待講演)   |
| 4. 発表年<br>2023年   |

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>佐野楓                 |
| 2. 発表標題<br>マーケティング視点からの観光研究    |
| 3. 学会等名<br>観光マーケティング研究会 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2023年                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Husna ZainalAbidin, Kaede Sano, Caroline Scarles  |
| 2. 発表標題<br>Exploring tourists' perceptions on the use of generative AI: Using ChatGPT for travel planning to Japan |
| 3. 学会等名<br>Travel and Tourism Research Association (TTRA) Asia Pacific Chapter (国際学会)                              |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kaede Sano, Husna ZainalAbidin |
| 2. 発表標題<br>人工知能が観光客の旅行意思決定プロセスに与える影響      |
| 3. 学会等名<br>サービス学会 第12回国内大会                |
| 4. 発表年<br>2024年                           |

〔図書〕 計1件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Gursoy, D. and Kaurav, RPS (eds.)   | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>Edward Elgar Publishing             | 5. 総ページ数<br>511 |
| 3. 書名<br>Handbook on Tourism and Social Media |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| 和歌山大学観光学部 佐野楓研究室<br><a href="https://kaede-sano-lab.jimdosite.com/">https://kaede-sano-lab.jimdosite.com/</a> |
|---|

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                 | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 永田 修一<br><br>(Nagata Shuichi)<br><br>(50546893) | 関西学院大学・商学部・准教授<br><br><br><br>(34504) |    |
| 研究分担者 | 佐野 宏樹<br><br>(Sano Hiroki)<br><br>(70779628)    | 立命館大学・経営学部・准教授<br><br><br><br>(34315) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |